

『私達が当たり前だと思っている生活を支える税』

町田市立鶴川第二中学校 3学年 設楽 幸

税の作文を書くときに、私は全然税金のことを知らないなと思い、国税庁のホームページにある、税の学習コーナーの入門編を見てみることにした。見てみると、『きれいなまちづくりのために』というのと、『家のなかで』というのが目に止まり、海外と日本のゴミと水についての違いを書くことにした。

私が小学生の頃、家族でフィリピンのセブ島に旅行に行った。私が行った街の泊まったホテルはすごく綺麗だったが、ホテルから街に出てみると、至る所にゴミが落ちていて、変な臭いもした。そのときの私は、「汚いな」くらいにしか考えてなかったが、今考えてみると、なぜ日本とこんなにも違うのだろうと思った。セブ島と日本のゴミ収集システムを調べてみると、フィリピンの法律では、毎日市の指定業者がゴミ回収を行うことになっているが、現実では毎日回収が行われてなかったり、日本に比べて街の中にゴミ箱が少ないため、ポイ捨ても多いと書かれていた。それに比べて日本では、税金による全戸対象のゴミ収集システムがしっかりと整備されていたり、街中にゴミ箱がたくさん設置されているので街を綺麗に保つことが出来ていると知った。私はこの事を知って、ゴミのない環境で生活できることは当たり前じゃないことに気付き、この生活は税金

によって守られているのだと知ることができた。

他にも、旅行中手を洗いたくなくなり蛇口をひねると赤茶色の水が出てきて驚いた。なぜ赤茶色の水が出てくるのか調べてみると、水道管の整備が行き届いていないために、水道管内の汚れやサビが溶け出し、水に混じって出てきていると知った。また、日本では税金によって水道管の工事が出来ているため、蛇口をひねれば、簡単に顔や手を洗ったり水が飲めたりすることも知ることができた。これらを知り、日本は本当に住みやすく素晴らしい国なのだと痛感した。このように、私達が当たり前だと思っている生活は、全然当たり前ではなく、行政がきちんと目配りし、税金を大切に利用してくれているからこそある生活だということがわかった。しかし、街を清潔に保つだけでもたくさんのお金がかかる。なので、この環境を維持していくためには、私達市民一人一人が税金の使い道を理解し、しっかりと払い続けていくことが何より大切だと思った。